

～楽しい福祉を皆さんに!!～

# らくふく瓦版

Vol. 11

【発行】

川崎市老人福祉施設事業協会

〒213-0001

川崎市高津区溝口1-6-10 てくのかわさき内

TEL : 044-812-1231 / FAX : 044-812-2077

http://www.kawasaki-roushikyo.org/



健康福祉局長  
成田 哲夫

本年4月より健康福祉局長に就任いたしました、成田でございます。

川崎市老人福祉施設事業協会員の皆様におかれましては、日頃より本市の高齢者福祉施策に対し御理解、御協力をいただいておりますことを、この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、本市におきましては、一段と高齢化が進む平成37年（二〇二五年）を見据え、高齢者のみならず、こどもや障害者などを含む「全ての地域住民」を対象とした「川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョン」を策定し、地域包括ケアシステムの構築に向けた取組を推進しております。

また、本年4月に、推進ビジョンを上位概念として策定した「第6期川崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（かわさきいきいき長寿プラン）」におきまして、高齢者が住み慣れた地域で安心して健やかに暮らせるまちづくりを進めているところでございます。

具体的には、高齢者のいきがいや健康づくりに取り組むとともに、介護が必要になっても安心して暮らし続けられるよう、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」や「（看護）小規模多機能型居宅介護」等、地域密着型サービスの充実に加えて、真に施設を必要とする方が入居できるよう「特別養護老人ホーム」の整備を行うなど、川崎らしい都市型の地域居住の実現に向けた取組を進めております。



また、「かわさき健幸福寿プロジェクト」といたしまして、介護サービスの質が評価される新たな仕組みの導入に向けて、今年度、市内の介護事業者100か所を対象としたモデル事業に取り組んでいるところでございます。

最後に、忘れてはならないのは、介護人材の確保と定着です。

介護サービスの最大の基盤は人材でございますので、事業者自らの主体的な取組とともに、本市におきまして、福祉人材バンクや人材開発研修センター等の事業を通じて、質の高い介護サービスが提供可能となりますよう、引き続き支援してまいりたいと存じます。

今後ともより一層の御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の御健勝を祈念いたしまして挨拶の言葉とさせていただきます。

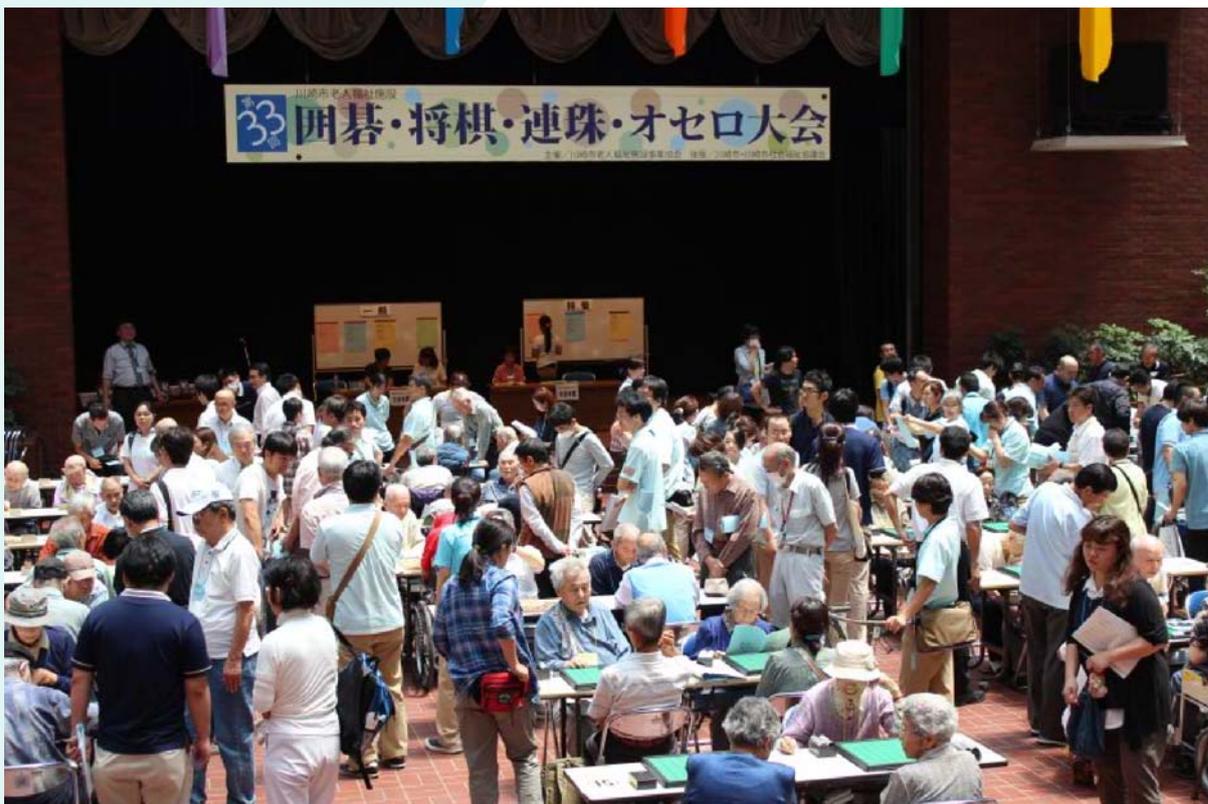


～楽しい福祉を皆さんに!!～

# らくふく瓦版

Vol. 11

## 第33回 囲碁・将棋・連珠・オセロ大会



平成27年6月25日、雨上がりの空の下、市内各所の特養・デイから川崎市民プ  
ラザに総勢384名の利用者、  
職員が参集し第33回 川崎  
市老人福祉施設囲碁・将  
棋・連珠・オセロ大会が開  
催されました。

当日は、少し早い七夕の  
ように年に一度の再会を心  
待ちにしていた利用者や昨  
年の屈辱を晴らすべく闘志  
を燃やし参加する利用者、  
初めての参加で緊張気味の  
利用者それぞれの胸の内  
に秘めた思いは会場の熱気  
をさらにヒートアップし、  
まさに陽炎の中に勝利を追  
う狩人のようでした。

今回の大会が終了した瞬  
間から勝った利用者も負け  
た利用者も好敵手との出会  
いに来年の再開を心待ちに  
する長くて短い一年間が始  
まり、日々の健康に気を付  
け元気に参加されることを  
楽しみに私たち職員も、慌  
ただしくも楽しい日々の中  
に戻り利用者との時間を大  
切にしたいと思います。



【優勝者表彰】



【選手宣誓】

～楽しい福祉を皆さんに!!～

# らくふく瓦版

Vol. 11

## 第33回 囲碁・将棋・連珠・オセロ大会



【囲碁】

当該手記は、昨年開設で当大会初出場のヴィライージュ虹ヶ丘からの報告です。

まず、出場者の多さ、会場の熱気に圧倒されました。施設として初出場なので、当然選手（ご利用者）も初めてです。会場に向かう車の中でも緊張が伺えた選手の方が、この雰囲気の中で緊張を解けるはずありません。上気した顔のまま対戦を迎えてしまい、初戦で敗退2名。それでも3回戦まで勝ち上がった選手もあり、そこまで勝ち上がると、だんだんとペースもつかめ、負けたときの悔しさも倍加していらしたようです。『ルールのコツ（限られた時間の中で如何に“優勢”に持ち込むか）をつかんでなかったから』と、敗因を分析し、来年に備える！と、さっそく燃えていらしゃいました。



【連珠】

どの選手も、試合後のペットボトルの冷たいお茶がおいしかったと口をそろえていました。会場の熱気もさることながら、緊張からの解放感を味わっていらしたのでしょうか。こうした緊張感も、なかなか施設内で体感することはむずかしく、こつして外に出て、同じような生活をされている方々と集い、同じ目標に向かって集中することの素晴らしさを、職員も再認識した大会でした。こうした経験をされた諸先輩（施設、選手、付き添い職員）が少しずつ増えていった結果として、33回目を数える素晴らしい大会になったのだなあと感じました。

また、これだけの大人数で一斉に試合をするに際し、運営を支えていただいている方々の手際、段取りが的確で、初出場のわが施設の選手でもスムーズに試合に臨めたことも、ぜひこの場を借りてお礼したいと思います。次年度からは、わが施設も当大会運営を何かしらのカタチで支えられるようになりたいと思います。

なにより全選手がイキイキとされていたことが、この大会のすばらしいところだと思います。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。



【オセロ】



【将棋】

# 福祉施設のご紹介

## 社会福祉法人 照陽会

### 特別養護老人ホーム みんなと暮らす町

〒212-0051

川崎市幸区東古市場116-12

TEL:044-520-1901 / FAX:044-520-1906

施設の理念は「自由・勝手・気ままな暮らし」「遊びの追求」を掲げ総勢約130名の職員は各セクシヨンの業務を常に施設の理念に立ち返りながら組み立て実施しています。

サービス事業は、施設内で介護を提供する特養120床、シヨートステイ20床、デイサービス25名と施設外部で介護者を支援する居宅介護支援センター、地域包括支援センターがあります。

みんなと暮らす町は平成20年1月に幸区東古市場に開設した全室個室ユニット型施設です。



【屋外にて調理師企画の草もち作り】

異職種や別フロアの職員同士の交流は親睦会を通じて行っており、参加人数は毎回90名前後と大所帯になるので場所決めに苦労しています。

地域交流室は、町内会の会合やボランティア活動の団体に開放しており、地域との共存に努めています。

ユニットは10人を1単位として特養とシヨートステイも含め14箇所の独立した集落があり各々の入居者と職員の構成によって特色を出しながら入居者と職員が協同で自治運営しています。自治運営の一例として、ユニット費を使って住環境を充実させるために、入居者と職員で一緒に考えた必要な物（家具・観葉植物・金魚・お菓子・入浴セットなど）の購入や、外食・外出・出前（宅配）の娯楽にと自由に使う楽しんでいきます。このように施設の自由度は高く、自由に起き、勝手に食事をし、気ままに入浴できる環境の構築に努めています。



【青空の下で健康回復教室】



【乙女文楽「二人三隻」H27. 1. 27来設】

個浴にリフト設置やスライディングボード使用など腰痛予防のノーリフトポリシー推奨、短時間正規職員の整備、非常勤の賞与支給、資格手当やキャリアパス整備など職員の福利厚生と処遇改善にも積極的に取り組み前向きな職場環境を築くよう努めています。これらの取り組みにより職員にもゆとりがでる入居者・利用者おひとりお一人に丁寧で穏やかな対応が可能となり、まさに「みんなと暮らす町」となっておりますので是非とも興味を持っていただけると幸いです。今後とも地域に必要とされ、かつ職員も充実した場所でありたいと考えております。



【行事食の特別弁当】

# 福祉施設のご紹介

**社会福祉法人 子の神福祉会  
富士見プラザ フォンテーヌ鷺沼**

〒216-0005  
川崎市宮前区土橋3丁目1番6号  
TEL:044-863-3411 / FAX:044-863-3410

改札を出ると、浮き輪を持ってはしゃぐ大勢の子供とその家族、黒々と日焼けした若いカップル。そして線路沿いの坂道には「水遊び用品」や「かき氷」などを売る沢山の露店。ここは湘南の海水浴場ではありませぬ。その風景は一九六八年頃から二〇〇〇年頃まであった「鷺沼プール」と言う川崎市の施設から東急田園都市線「鷺沼駅」まで伸びる沿道の最盛期の頃の風景です。



【施設外観】

最盛期（一九八〇年頃）は都内からも利用者が押し寄せ、市内でも最大級のプール施設だったと聞いています。現在プールは無くなりましたが、新たにカップパーク鷺沼として小学校、公園、フットサル場、保育園、そして高齢者施設が整備され、市民の重要な拠点に生まれ変わっております。その高齢者施設を担っているのが、宮前区野川にある「富士見プラザ」のサテライト施設として平成21年3月に竣工した「富士見プラザフォンテーヌ鷺沼」です。



【園芸レク】

介護サービスは地域密着型のサービスマ中心で「地域密着型介護老人福祉施設」「認知症対応型通所介護」「小規模多機能型居宅介護」「短期入所生活介護」など、その他「住宅型有料老人ホーム シニアヴィラ鷺沼」や地域の方のサークル活動などに便利に利用して頂いている地域交流室「ふれあいスペースみやまえ」などがあります。

今後も地域の福祉拠点として、地元の皆様から愛される施設を目指し、努力していききたいと思えます。



【音楽療法】

# 福祉施設のご紹介

社会福祉法人 三神会  
特別養護老人ホーム

フレンド神木

〒216-0031

川崎市宮前区神木本町5-12-15

TEL:044-871-2010 / FAX:044-871-2011



【新人職員全員集合！】



【平小学校との交流会】

お好きな時間に食事を召し上がる事が出来る様、個別配膳とすることで、いつでも温かい物は温かく、冷たい物は冷たく召し上がる様に配慮をすること。また、その時々で飲みたいものを選ぶことが出来る様、常に数種類の飲み物を用意しておくことと、好みを伺う配慮。恥ずかしい思いをせず、急かされることなく入浴出来るように、

フレンド神木では「ご高齢者の当たり前の暮らしを支えよう！」をスローガンに、ユニットケアの手法を用いて個別ケアの推進に取り組んでいます。



【フレンド秋祭り】

マンツーマンでの対応をすること。オムツに頼らずに、トイレを利用できる支援をすることで、自尊心や「自分でできる」という活力を持つて頂くこと。これらの配慮が密接に関わりあう中で、お一人おひとりの「当たり前の暮らし」が実現すると考えています。

昨年5月には地域密着型特別養護老人ホームフレンド神木二番館もオープン致しました。これまで培ったノウハウを活かし、ご自分で召し上がりやすい高さに調節できる食卓、各居室へのトイレの設置、機械に頼らない個浴槽の充実と、「当たり前前の暮らし」をハード面でもサポートしています。

また、ショートステイにおいても、同様の個別ケアに加え、積極的な外出レクに努めています。在宅のご利用者の方々こそ、介護力の不足により外出がままならないことが多いという側面に焦点を当てたこのサービスはとてご好評を頂いています。

～楽しい福祉を皆さんに!!～

# らくふく瓦版

Vol. 11

## 「第27回老人福祉施設研究発表会」開催



平成27年2月26日（木）当協会及び川崎市社会福祉協議会主催（後援・川崎市）第27回老人福祉施設研究発表会が、川崎市総合福祉センターにおいて開催されました。

この発表会は、市内の高齢者福祉施設で働く職員及び関係者が一同に会し、日頃の実践や研究の成果を発表し討議することによって、職員の資質をより一層向上させると共に、介護・介助等の高度化を図ることを目的として毎年この時期に開催されております。

開催に先立ち当協会深瀬会長より「27回の歴史ある大会で、これまでの様々な発表が今の施設の基礎となっていることは確かであり、今後の施設運営の参考になると確信している。多くの施設は人材不足であり、加えて介護報酬ダウンは運営に大きな支障を与えるのではと危惧している。しかし、我々職員のやることは一つ、ご利用者や地域の方々の幸せを目的としている。この大会が今後の業務に必ずや役立つものと確信している。」との挨拶に続き発表に移りました。

今回の研究発表会には5施設から多分野に亘る発表があり、77名の職員が参加されました。

発表後、各グループに分かれてのグループワークが行われ「少人数に分かれてジックリと議論でき良かった。」「いま自分の施設で取組んでいる活動に大変参考になった。」等の意見も聞かれ、大変有意義な研究発表会でした。

大きな会場で空席も目立ちましたが、それを感じさせない熱気溢れる発表会でした。来年こそは、満席での開催を期待したいところです。

発表された施設並びに発表者の皆様、また、お忙しいなか参加された職員の皆様ありがとうございました。

なお、「みんなと暮らす町 地域包括支援センター」の発表にあつては、本年9月茨城県水戸市で開催される「関東ブロック老人福祉施設研究発表会」において発表することになっております。

発表施設及び発表テーマは次の通りです。

- (1) 特養 金井原苑 「できる」自信と「心」の広がり
- (2) 特養 大師の里 「日常リハビリにおけるADL向上について」
- (3) 特養 しゃんぐりら「最後まで私として生きる事」
- (4) みんなと暮らす町 地域包括支援センター  
「地域包括ケアシステム構築へ向けての取り組み」
- (5) 特養 すえなが  
「KYT（危険予知トレーニング）と職員の意識改革」

～楽しい福祉を皆さんに!!～

# らくふく瓦版

Vol. 11

## 平成27年度 第1回職員研修会「認知症の理解」開催される



平成27年6月30日(火) 大山街道ふるさと館において、当協会研修委員会主催第1回職員研修会が行われた。

講師は、ヴィラージュ川崎施設長「神田けい子」氏、テーマは「認知症の理解について(ひもときシートで認知症の「その人」を理解する)」であった。

始めに、「認知症のその人を理解するには、その人の生活を理解していなければ、認知症のケアができることはない。」

援助者にどれだけ気づけるか「ケース事例」に沿い「ひもときシート」を活用し、評価的理解・分析的理解・共感的理解に関し、それが与える8つの視点から探り、人生の背景や環境が与える影響まで踏み込んだ内容でのグループ討議となりました。

講師からも、本人を「困った人」と捉えるのではなく「本人が困っている」ことに気づくことの大切さを指導された。その人自身の悩みなど原因となる背景を探ることが重要である。

認知症に対する「共感する・認める・聞いていく」なかで、好きなこと、出来ること、やれることを見つけ、新しい生活を作っていくのが私たち職員に課せられた役割であると。

後半では、「BPSD(心理行動症状)の捉え方とケアについて」と題して、認知症の方の全員に中核症状(記憶障害・見当識障害・実行機能障害・理解、判断力の障害等)は出現するが、BPSD(興奮、暴力・不安、焦燥・幻覚、妄想・うつ状態・徘徊・不潔行為・せん妄等)は、その人の性格、素質、その時の環境、心理状態等の影響で全員が同じことのように出ることはない。

認知症ケアは、その人の生き抜くことを援助していくことである。将来、認知症の方が少なくなるのではなく、認知症問題はまだまだ研究途上である。

特養において認知症の方への対応は、避けて通ることができない課題です。それだけに各施設には認知症対策には大変苦慮されており、この研修に期待するもの大きさが判るようでした。

途中15分の休憩を入れ、異例の3時間半を越えての講演でしたが、長時間にも拘らず参加者全員集中を切らさず有意義な研修会でした。

### 人材育成委員会について

#### (1) これまでの活動の経過

● 福祉人材バンクと協力し、神奈川県・東京都の介護福祉士養成校等を訪問し、学生の実情や就職情報等について就職課の教員と意見交換を行う

● 高齢者事業推進課、福祉人材バンクと協働して、施設紹介のパンフレット、DVDを作成。一般の方にも理解しやすい内容になっているので、求人活動や施設紹介に活用

● 介護の仕事に興味がある方の就労パスツアーに協力

#### (2) 今年度(平成二十七年)の取組み

● 介護福祉士養成校にとどまらず、大学、定時制高校等に、訪問する学校の範囲を広げて意見交換を実施し、川崎の高齢者施設の魅力をアピールする

● 施設長会へ人材育成についてのアンケートを行い、今後の活動に役立てる

● 高齢者事業推進課と連携し、小学校の総合学習を福祉施設で受け入れていく

### お知らせ



5月1日付で「緑陽苑」が「あさおの丘」へ名称変更になりました

### 編集後記

らくふく瓦版では事業協会の活動や会員施設の紹介を行っています。

川崎市内の特養を中心とした介護保険サービフ提供事業者が参画し情報公開や職員の資質向上を図っています。

今後ともご愛読の程よろしくお願ひします。